

古地図の魅力

それぞれの時代の世界観や地域像を描いた“古地図”には本来の地図の役割に加えて芸術性を備えた魅力的な地図が多くあり、名品と呼ばれる地図も多く存在する。未知の大陸、架空の島、想像上の動物などが描かれた地図もある。古地図を眺めていると、その魅力に取りつかれる。それぞれの地図に何が描かれているかは異なっているが、じっくり眺めると新しい発見に出会うという楽しみもある。

下の地図にも様々な地図の要素が含まれている。

ポルトガルの地図(1667年)

紋章 帆船 方位盤
海獣に乗る人物

赤い建物で描か
れる主要都市

地図の周囲には
緯度・経度を示
す数字と目盛

この地図は
北が右、西が上
に描かれている



【官製絵葉書(パチカン)】



宛名面コピー (50%)

カルトゥーシュ
:装飾の付いたタイトル
大航海時代の測量器具三種とそ
れを使う人物像が描かれている

縮尺(スケール)
:二つの距離単位で
示されている

プラン

タイトル・プラン	p.1	5 鳥瞰図・景観図	p.13~p.15
1 地図の始まり	p.2	6 アメリカ大陸を描いた地図	p.16~p.21
2 ローマ時代起源の地図	p.3~p.5	6.1 世界地図 6.2 アメリカ大陸図・地域図	
2.1 ポイティンガー図 2.2 プトレマイオスの地図		7 近代地図帳の時代	p.22~p.32
3 アジア・アフリカ・ヨーロッパを描いた世界地図	p.6~p.8	7.1 オルテリウス 7.2 メルカトル・ホンディウス	
3.1 円形の世界地図 3.2 カタロニア図		7.3 ブラウ 7.4 その他の地図製作者	
4 ポルトガノ海図	p.9~p.12	8 近世日本の地図	p.33~p.36

1 地図の始まり

紀元前に
描かれた地図

世界各地の先住民が洞窟の岩や大地、粘土板などに自分達の生活空間や世界観を描いたことにより、長い地図の歴史が始まった。

バビロニアの世界図：紀元前600年頃のメソポタミアで粘土板の上に描かれた現存最古の世界図。ユーフラテス川の流れる円盤状の大地を海が囲み、その周囲に未知の大陸が存在するという世界観を表している。

バビロニアの世界図:左
と再現説明図:右



【アルメニア:2016】



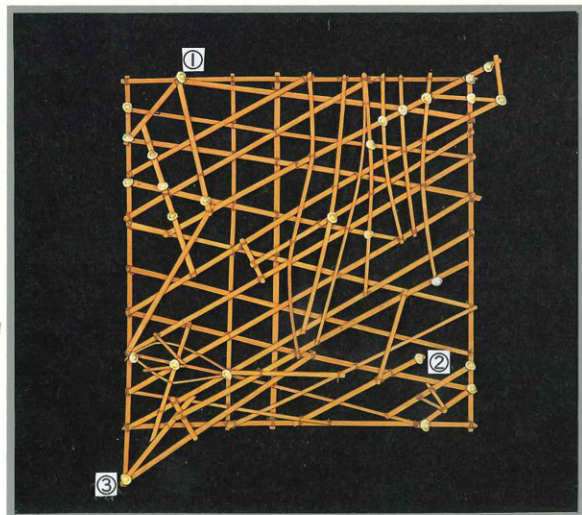
力モ二力溪谷の岩絵地図
《作成記念葉書》→

紀元前1500年頃にアルプスのカモニカ溪谷に彫られた岩絵には、人や動物、家屋、畑、水路、井戸など集落を表す地図が描かれている。

スティック チャート

文字の無い社会で作られた地図の中でも異色の存在である
マーシャル諸島の海図(スティックチャート)はココヤシの葉柄
を材料にした棒状の地図で、3種類に分類される。

レベリブ: 諸島の全体図で、貝殻や小石を結び付けて環礁の位置を表し、海流やウネリの方角をスティックで表現している。



《繪葉書》



【切手帳(マーシャル諸島:1985)】

メド：一部の海域を示す。

マタン:学習用の模式的な海図



【記念印(マーシャル諸島:1984)】

ここに棒が1本多いのは、貿易風の影響で最も強いウネリ現象が東から来ることを表している。

2 ローマ時代起源の地図

2.1

ポイトンガー図
(4世紀)

ローマ帝国最大版図
の北限に近いクラ
ヨーバ(ルーマニア)
付近の部分

ポイトンガー図はローマ帝国時代に作られた道路地図で、原図はなく13世紀の模写図を史料収集家ポイトンガーが所有したことからその名が付けられた。ヨーロッパから北アフリカ、インドまで帝国の版図や影響の及ぶ範囲を描き、縦30cm、横7mという長大な地図のため形状はデフォルメされた変形地図になっている。



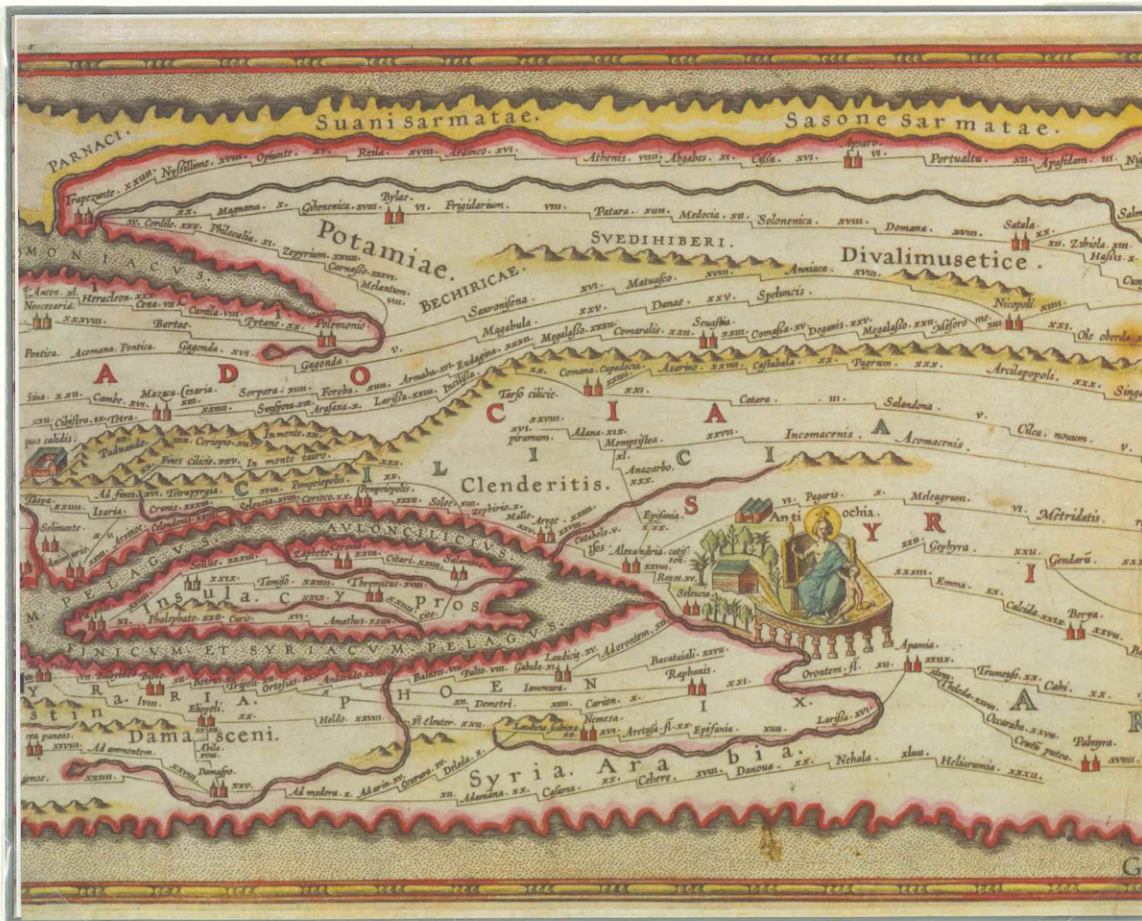
【変形3連刷(ルーマニア:1975)】



ローマが描かれた部分(イタリア:1999)



細い線の道路に沿って各都市間の距離が各地域の単位の数字で記されている。中心都市は王座に座った人物像で描かれ、家屋を重ねて描いた都市(大小も区別)や宿駅、山や河川を表す絵画的な記号の描写が見られる。



《複製図》

東地中海の部分

カッパドキア、シリアの地名
キプロス島とその東には長
い槍を持った人物像で示
されている五大総主教座
の一つアンティオキア(現ト
ルコのアンタキヤ)が描か
れている。



黒海・地中海・カスピ海に
挟まれた古代アルメニア
王国の部分

【アルメニア:2014】

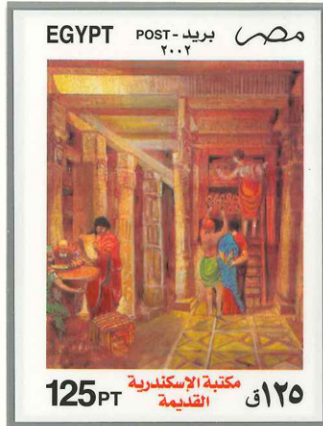
2.2 プトレマイオスの 地図

エジプトのアレクサンドリアで活躍した古代最高の地理学者プトレマイオスは2世紀に『地理学』8巻を著し、その中で世界図を円錐図法で描く方法について記述した。現存する地図はないが、ルネサンス期に著書『地理学』とともに世界図も復刊した。

プトレマイオス《カシエ》

【初日カバー（ポプタツワナ:1991）】

古代最大、最高の図書館で学術研究の
中心であったアレクサンドリア図書館



【エジプト:2002】



プトレマイオスの世界図：第2図法（1480年復刊）

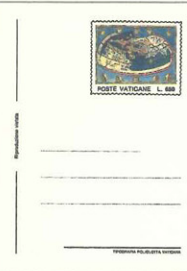
情報量の多い地中海周辺は比較的正しいがアジア東部は不正確で、インド洋を“内海”として描いているのが大きな特徴である。



ナイル川源流
とされた伝説
の“月の山脈”
を描いている。

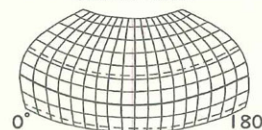
【官製絵葉書（パチカン）】

CARTE POSTALE
Carta del mondo conosciuta al tempo
Ormai di Niccolò Germanico - c. 1480
(Edizione Apollonia Valente)



宛名面コピー（50%）

プトレマイオスの第2図法
（経線が曲線）



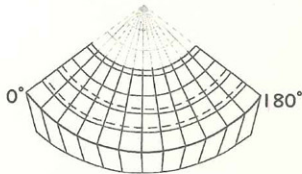
上のカバーに貼られた4枚の
切手のアフリカを描く地図は
1500年代初期（1488年の
ディアスの喜望峰発見以降）
の地図で、プトレマイオスの世
界図とは異なりアフリカを周回
できる大陸として描いている。

本初子午線である西端
は現在のカナリア諸島
付近、東端の中国を経
度180度と地球半周分
の大きさで描いており
（実際は経度差140度）、
コロンブスの航海に大
きな影響を与えた。

【初日カバー(ボブツツワナ:1992)】

右のカバーに貼られた4枚の切手のアフリカを描く地図は前ページと同様、1500年代初期の地図で、プトレマイオスの世界図とは異なりアフリカを周回できる大陸として描いている。

プトレマイオスの第1図法
: 単円錐図法
(経線が放射状直線)



プトレマイオスの世界図: 第1図法(1490年復刊)《カシェ》

プトレマイオスの地域図

: プトレマイオスの『地理学』には世界図以外に26の地域図(ヨーロッパ10, アフリカ4, アジア12)も付けられていた。

イベリア半島北西部に架空の島であるカシテリデス諸島(錫の島)が描かれている。

イベリア地域(1480年復刊)



【官製絵葉書(パチカン)】

CARTE POSTALE
Carta della Spagna
Carta di Spagna Germanica - c. 1480
(Biblioteca Apostolica Vaticana)



宛名面コピー(50%)

タプロパナ(セイロン)島

世界図でも実際より10倍以上の大きさと描かれており、インド半島の南への突き出しと混同した可能性がある。



【スリランカ:1995】

古代アルメニア王国と
プトレマイオスの肖像



【アルメニア:2016】

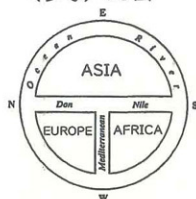
黒海・地中海・カスピ海に挟まれ、4世紀にはローマ帝国の支配にあった古代アルメニア王国の部分。

3 アジア・アフリカ・ヨーロッパを描いた世界地図

3.1

円形の世界地図

(参考) TO図

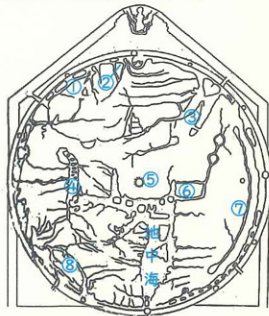
マッパムンディ
(11世紀)

TO図の大幅
変型版で赤色
の部分で紅海。
教会や大聖堂
がびっしり描
かれた宗教色
豊かな地図。



[タジキスタン:1999]

ヘレフォード図：英国ヘレフォード
寺院収蔵の代表的なマッパムン
ディで直径1m以上に及ぶ。キリ
スト教世界観を聖書に基づいて
表現した世界図である。



- ①セリカ(中国) ②ガンジス川デルタ
- ③アラビア半島 ④黒海
- ⑤エルサレム ⑥ナイル川デルタ
- ⑦ナイル川上流 ⑧イングランド

ヘレフォード図(1300年頃) 《絵葉書》



イドリーシーの世界図：古代科学を継承した中世
イスラムの円形地図でアラビア半島が図の中心。
当時イスラム世界の中核であったイラク周辺から
見ると祈りの方角聖地メッカが南方に位置するこ
とから、南を上にして描いている。

イドリーシー



[モロッコ:1963]

イドリーシーの世界図(1154年)



[スペイン:2006]

ナイル川の描写や
東へ伸びる広大な
アフリカ大陸はプ
トレマイオスを継
承しているが、イン
ド洋は外海として
描いている。

上下を逆にしてデザイン化した地図



[サウジアラビア:1977]

ヴァルスパーガーの世界図(1448年)



Manoscritti
cartografici
nella
Biblioteca
Apostolica
Vaticana

《絵葉書セットのカバー表紙》

3.2

カタロニア図
(1375年)

ヴェネツィア、ジェノヴァ、バルセロナと並び13世紀から製作が始まったポルトラノ海図(→ 9ページ)の製作中心地であった地中海のマリョルカ島の地図製作者クレスケスが1375年に完成させたカタロニア図は、西ヨーロッパ・北アフリカから東はアジア東部までを描いた世界図である(ただしアジア北部とアフリカ南部は省いている)。絵画的表現である中世の地図の特徴とポルトラノ海図の特徴を両方持ち合わせている。

絵面:イベリア半島の部分

切手:西ヨーロッパ・北アフリカの部分

バレアレス諸島の古地図(1563)



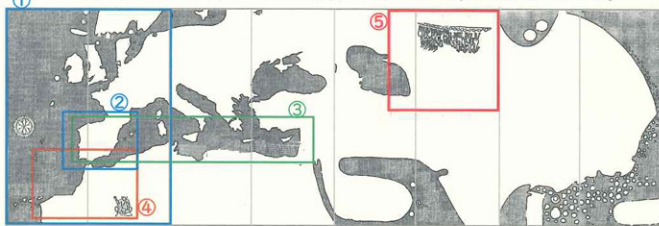
【スペイン:1981】

マリョルカ島はスペイン東部バレアレス諸島の主島で、近世初頭地中海貿易の中心地であった。

イベリア半島中央部の大きな円(黄色の背景)で示されるのはカスティリヤ王国の首都で城郭都市のトレド。

全体の輪郭図

：四枚の羊皮紙が木製パネルに貼られ、全体として縦65cm, 横2mに及ぶ。四枚の各パネルは縦に二分され八葉の地図からなる。



- ① 右上カード切手印面部分 ② 右上カード絵面部分
③ 下小型シート切手印面部分 ④ 右デラックスシート印面部分
⑤ 右ページ(8ページ)複製図部分

北アフリカの部分

【デラックスシート(セネガル:1992)】

地中海～パレスチナの部分 【イスラエル:1992】



交差する方位線網や沿岸部にびっしりと記載された地名は、イベリア半島西方の方位盤とともにポルトラノ海図の特徴を示している。

ラクダの右側の右手を上げた人物は、西アフリカで14世紀に栄えた黄金の国マリ帝国の国王マンサ・ムーサで手に持っているのは黄金の金塊である。

《複製図》

中央アジア部分に描かれたタクラマカン砂漠を進むマルコ・ポーロ隊

(反対向きに描かれている!)

マルコ・ポーロの影響

カタロニア図、時代的にはマルコ・ポーロの旅行後に製作されたもので、その成果を記載した最初の地図として知られる。タクラマカン砂漠南端の西域南道を進むマルコ・ポーロ隊が描かれ、シルクロードを描いた最古の絵と言われている。

大きな地図のため、どちら側からでも眺められるように絵画的表現や説明文の方向も一定していない。

東へ大きく張り出したカスピ海

マルコ・ポーロと中国への往路ルート



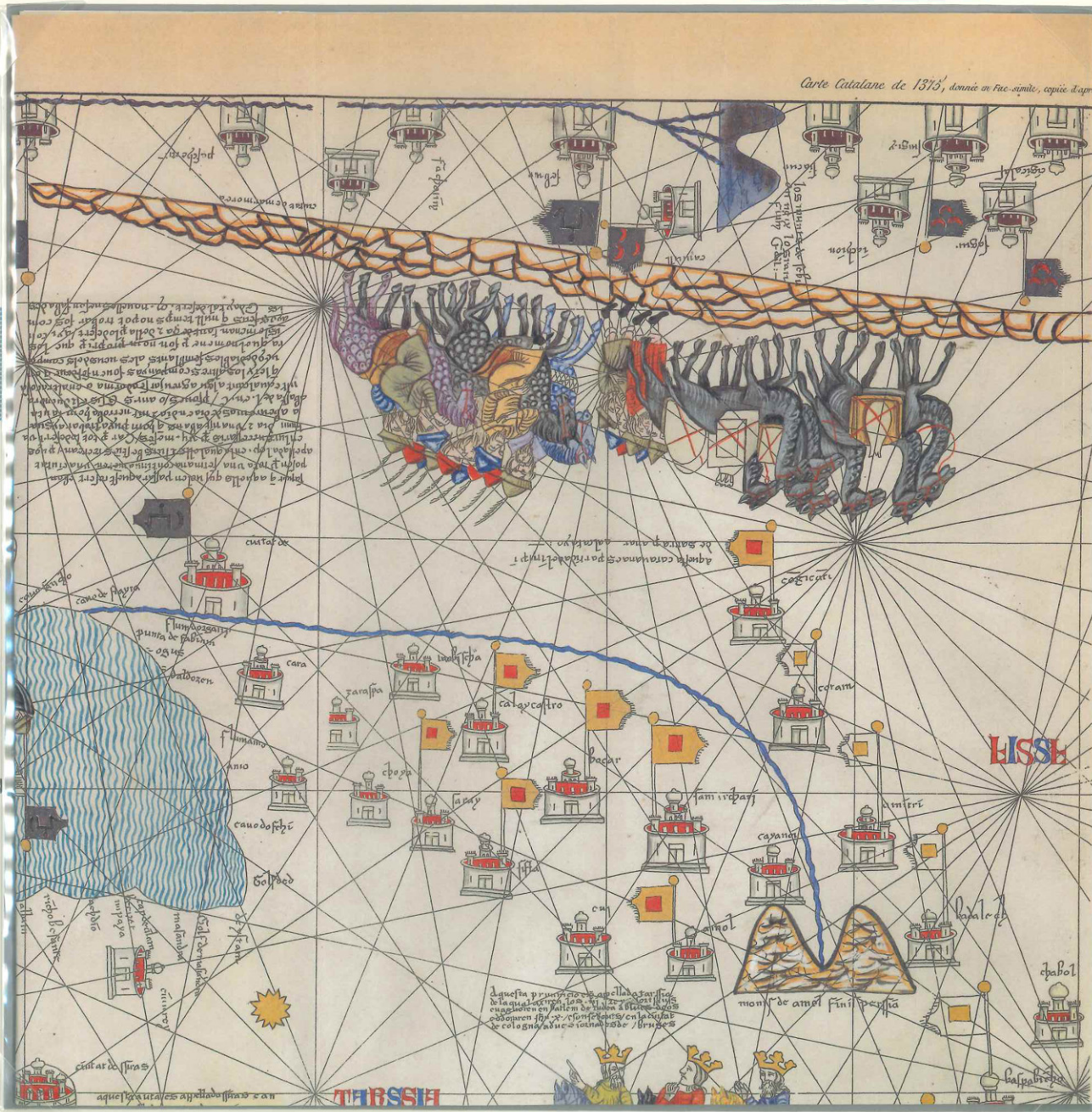
【ブルー on rosy paper】



【イタリア:1954】

(図案間違い!!)

ヴェネツィアから陸路でトルコ方面へ向かうルートが示されているが、実際には海路で地中海を進み現イスラエル付近に上陸している。



4 ポルトラノ海図

イベリア半島～地中海～北アフリカ(部分)

《複製図》

イタリア語で航海案内書を意味した「ポルトラノ」は後に、その書中に挿入されていた海図そのものを表す言葉として定着した。

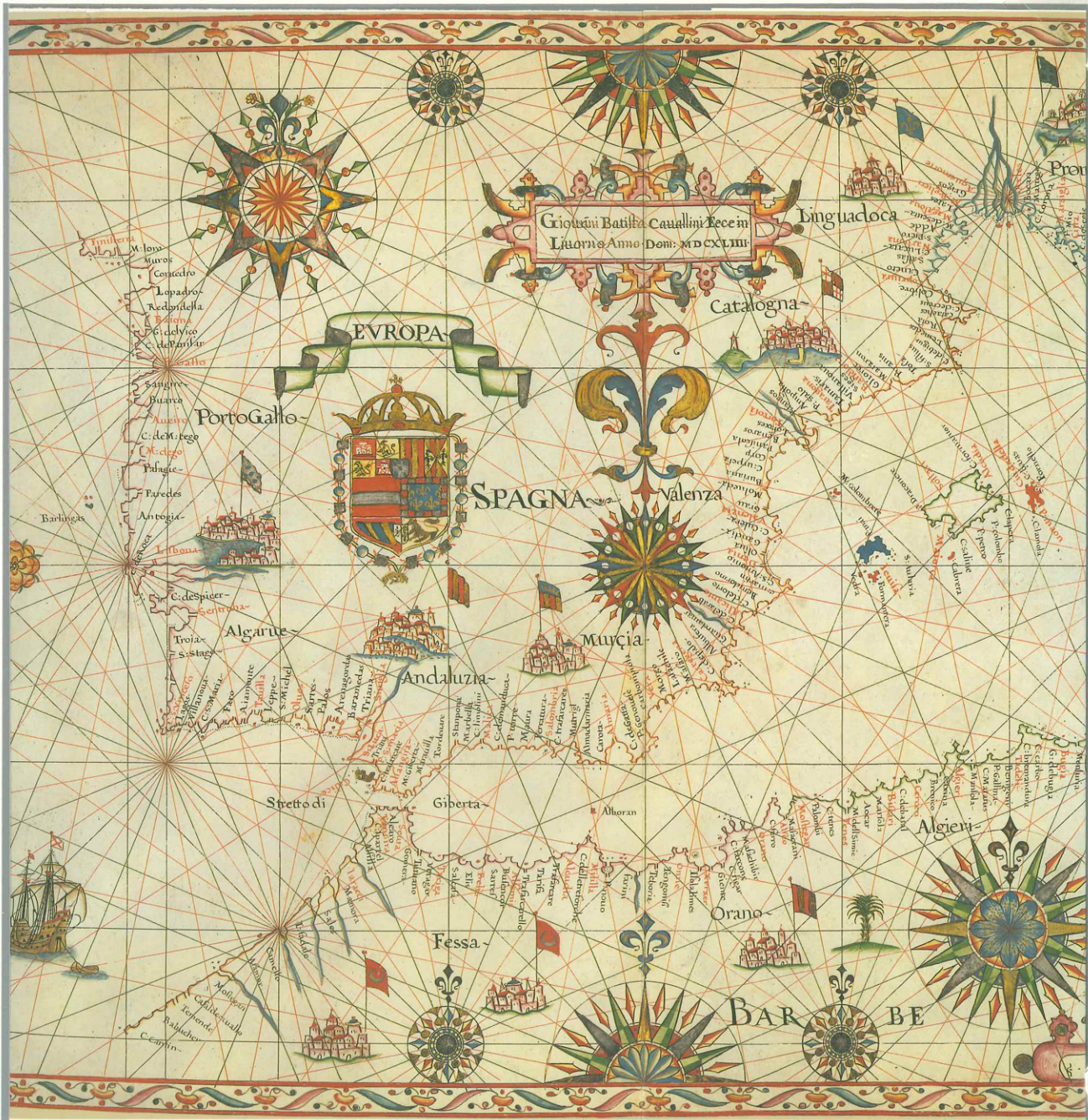
13世紀に製作が始まり、当初は地中海沿岸の地図が中心であったが、後には他の地域を描く地図も増えていった。

海岸線には地名がびっしりと記され、華やかなデザインの方位盤とそこから伸びる放射状の32本の方位線網が描かれているのが特徴である。

海岸線に対して垂直方向に地名が記され、食料の補給ができる重要港湾は赤字で示されている。



【ポルトガル:2015】



ポルトガノ海図は大航海時代の探検が進むにつれてアフリカ沿岸からインド洋へとその描く範囲が増え、15～16世紀にはポルトガル・スペイン両国で多く製作された。後にオランダやイギリス勢力が台頭するとヨーロッパ全体もその描く範囲に含まれるようになった。

ヨーロッパ南部～北アフリカ(16世紀中期)



【スペイン:2003】

アフリカ大陸西方のベルデ岬諸島(1471年)



【カーボベルデ:1952】

拡大コピー

諸島を構成する各島の島名が記載されているのが確認できる。

アフリカ ギニア湾岸(1540年)



【アンゴラ:1960】

拡大コピー

ギニア湾岸には、1482年にポルトガルが交易拠点として築いたエルミナ城砦が大きく描かれている。

アフリカ大陸南部～インド洋(1520年)



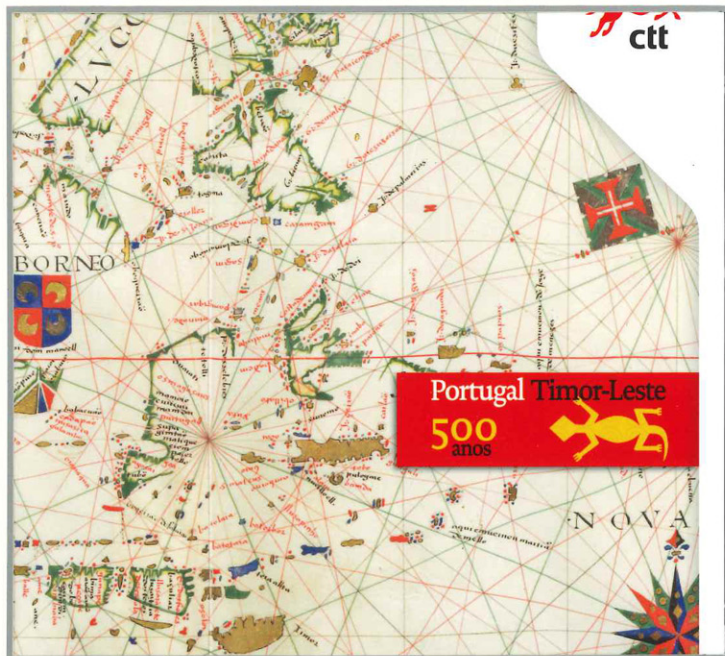
【モーリシャス:2002】

西ヨーロッパ～北アフリカ(1584年) 円形のアイスランドや台形状のアイランドが特徴的である。



《複製図》

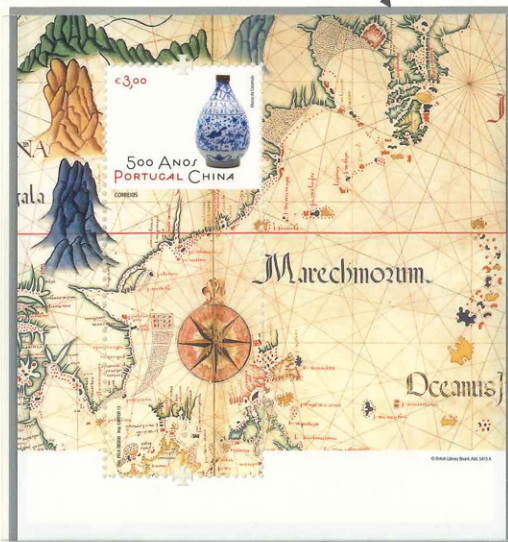
香料諸島(現インドネシア東部のモルッカ諸島)付近



《プレゼンテーションバック(ポルトガル:2015)》

ディオゴ・オーメン製
作の地図に描かれた
中国沿岸～日本

北回歸線の北側に南西諸島、島に分断された九州、その北に瀬戸内海を挟み中国、四国が大陸と繋がった半島状に描かれている。



【ポルトガル:2013】

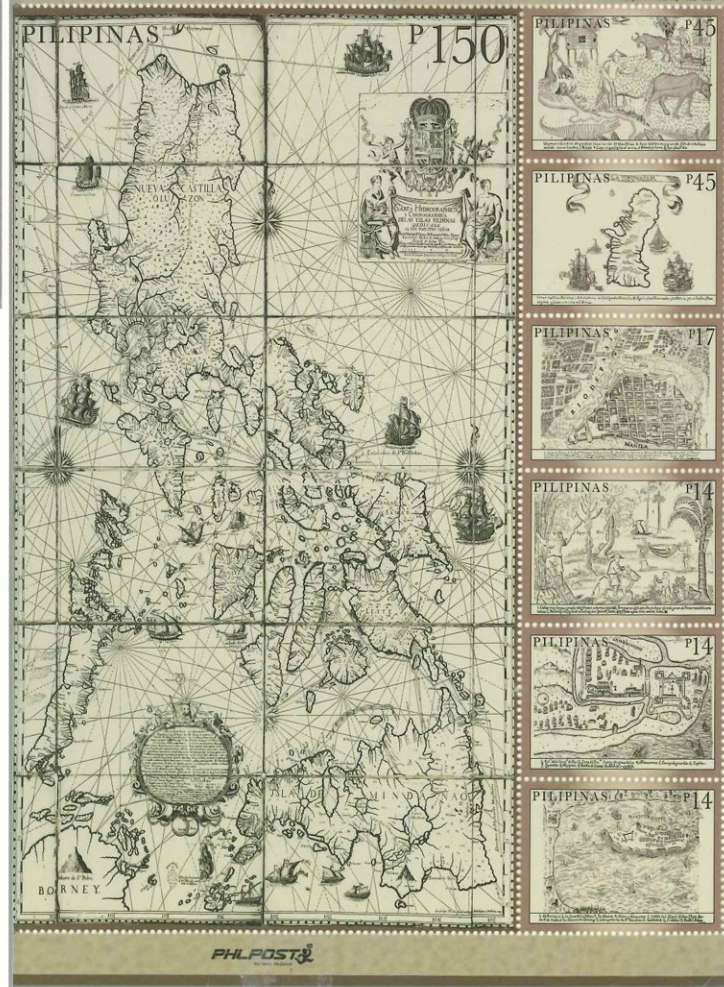
バスコ・ダ・ガマによるインド航路発見を実現したポルトガルは、東南アジア方面にも進出して香料貿易の独占を果たした。さらに中国、そして1543年には日本にも到来。一方、スペインもマゼラン到達後にフィリピンに進出したことにより、これらインド洋～東南アジア・香料諸島方面さらに中国、日本が描かれたポルトラノ海図が製作されるようになった。

ベラルデ製作によるフィリピンを詳細に描いた最初の地図

URILLO VELARDE
1734 MAP

graphica Y Chorographica de las Yslas Filipinas, Manila 1734
Reprinted with permission from Mel Velarde and Family.

500
Quincentennial
Commemorations
in the Philippines
Victory and Humanity 1581-2021



【フィリピン:2021】

コンパスローズ (Compass Rose)

ポルトランド海図の上に美しく描かれた方位盤はコンパスローズと呼ばれる。東西南北を基本に8方位を示していたものが、16方位さらには32方位と精密な方位盤に変化していった。この方位盤は花卉が重なるような凝ったデザインで、装飾性豊かなこの方位盤がコンパスローズと呼ばれるのはポルトガルの船員達がバラの花にたとえてウィンドローズと呼んでいたことに由来している。

コンパスローズからは放射状の航程線が網の目のように張り巡らされ、船員達は現在地から目的地までと同じ(平行な)方位を示す航程線を選び、羅針盤を利用してその方位を保ちながら航海した。海図としての実用性だけでなく装飾性にも優れていたのがポルトランド海図であった。



【ポルトガル:2013】



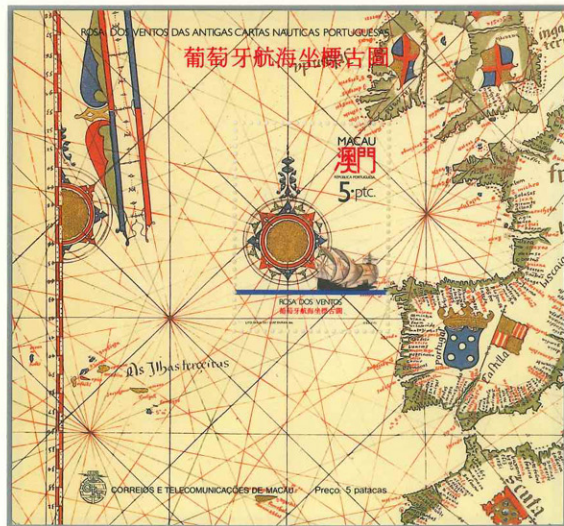
【マカオ:1990】



【アンゴラ:1969】



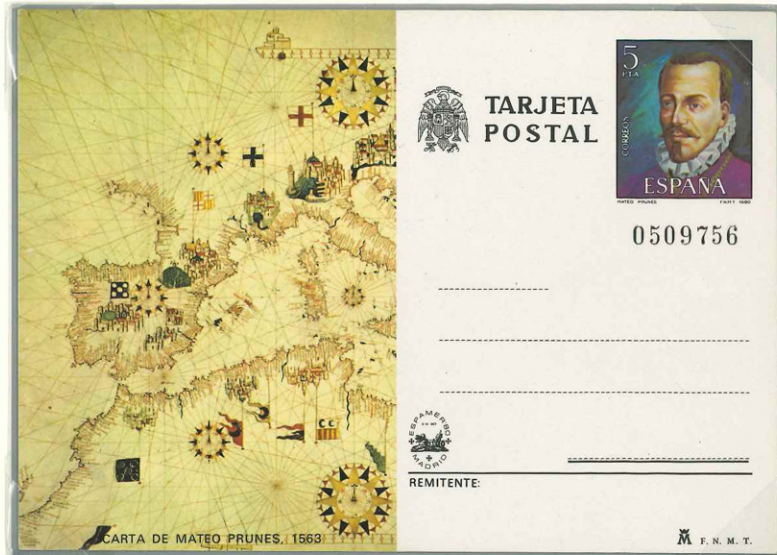
【スウェーデン:1997】



西ヨーロッパ～北アフリカ西端部

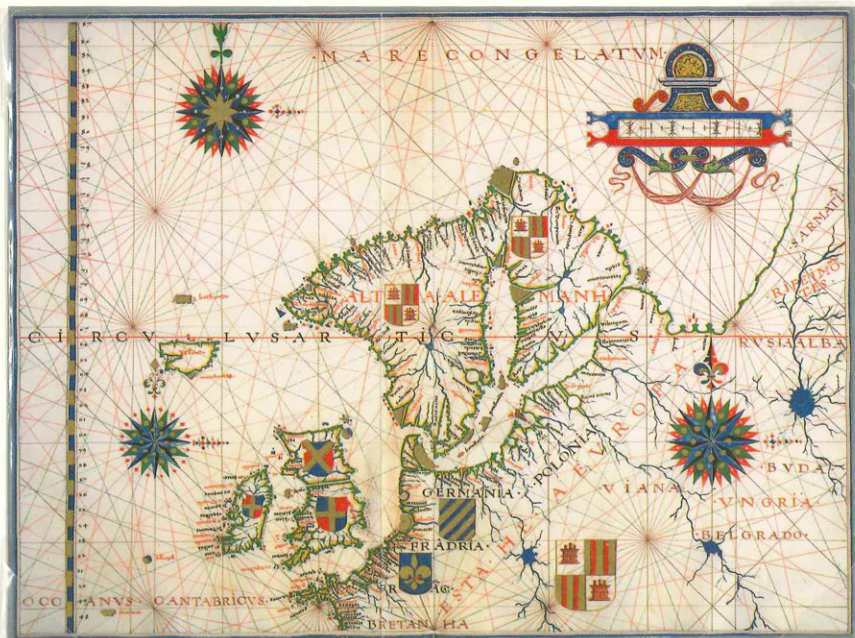
【マカオ:1990】

西ヨーロッパ～北アフリカ



【官製絵入り葉書(スペイン)】

ヨーロッパ北部



《複製図》

5 鳥瞰図・景観図

鳥瞰図

空から見おろした地上の様子を描き出した景観図は鳥瞰図と呼ばれ、上空を飛ぶ鳥の目から見えるであろう地上の世界を表現している。俯瞰する角度の違いによって見る側のイメージも異なってくる。商業都市、貿易都市、城郭都市など都市の発達に伴い、これらの都市を描いた鳥瞰図が多く製作された。

ヴェネツィア：パルバリ製作（1500年） 密集する建物を詳細、リアルに表現。



〈マキシマムカード（イタリア・2021）〉

ヴェネツィア（1581年）
【パチカン：1972】



パリ（1615年）
セヌ川の川中島シテ島を中心に発展。



【サントメ・プリンシペ：1991】

地中海の貿易都市ジェノヴァ（16世紀）



《絵葉書》

イスタンブール
（1422年）



【トルコ：1955】

ボスポラス海峡
を挟んでヨー
ロッパ側とアジ
ア側に市街地
が分かれる。

都市の発達が続く中、1572年から1619年にかけてブラウンとホーヘンベルクによって刊行された『世界都市図帳』（全6巻）は市街地の景観図を集めたもので、ヨーロッパの都市を中心に他の大陸の都市も含めて546の都市を収録しており、その中に視点の高さが異なる多くの鳥瞰図が含まれている。

エルサレム：『世界都市図帳』所収

《複製図》



城郭都市 中世から近世にかけては、城壁で周囲を囲んで堅固に防御した城郭都市が建設された。都市同士の領域争いや外敵進入の防止、植民地における領域の明確な区分などが目的であった。

パセイン



ダマン



コーチン



マラッカ



ポルトガル植民地から本国の国王への報告書に添付された都市や要塞の鳥瞰図をまとめた『全要塞図面集』がレゼンデにより17世紀に刊行された。

【ポルトガル領インド:1956】

【マカオ:1989】

ヨーロッパの都市景観は城壁、居城や建ち並ぶ教会群に特徴があり、教会の尖塔がランドマークになっている都市も多い。

プラハ

：ヴルタヴァ川（モルダウ川）沿岸に位置する →
チェコの首都プラハは尖塔が多く“百塔の街”
とも呼ばれ、丘の上にはプラハ城もそびえる。

グダニスク

：1000年以上の歴史を誇るバルト海に面したポーランド有数の港湾都市。



【ポーランド:1997】



《記念ブルーフカード》

北海に面した低地国を描いた地図（1617年）の周囲に配された現オランダ・ベルギーおよび周辺地域の都市の景観図。

リンブルク

ルクセンブルク

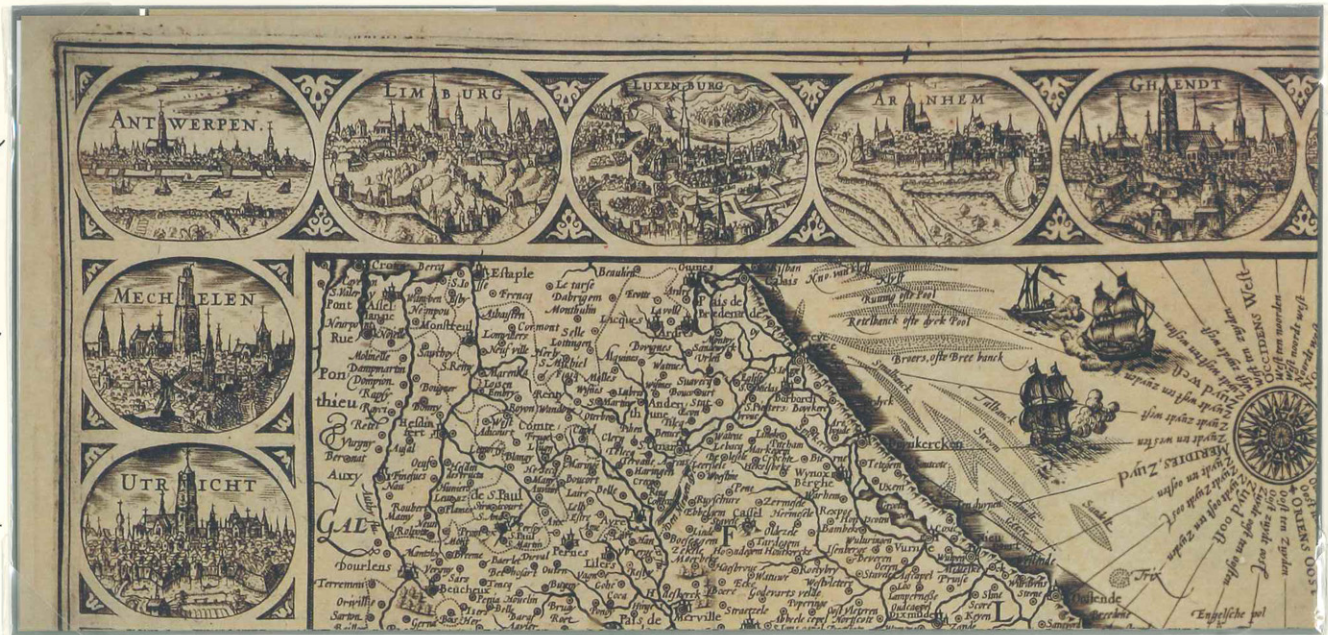
アーネム

ヘント

アントウェルペン

メヘレン

ユトレヒト



《複製図》

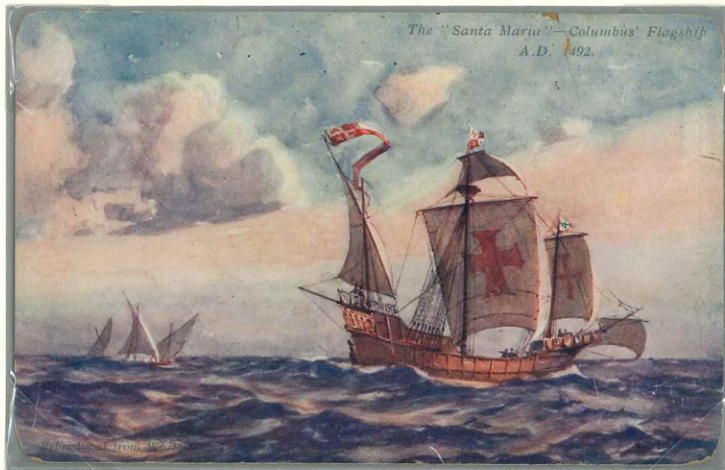
6 アメリカ大陸を描いた地図

6.1 世界地図

コーサ図
(1500年)

サンタマリア号

多くの荷物を貯蔵できる船楼を備え、遠洋航海が可能で大航海時代を代表する帆船であるキャラック船で、3本マストを備えていた。



《絵葉書》

コーサ図のアメリカ大陸・西インド諸島の部分

コーサ(料額面)



キューバ島やイスパニョーラ島が正確な位置関係で描かれている。

【官製絵入り葉書(スペイン)】

コーサ図
(全体図)

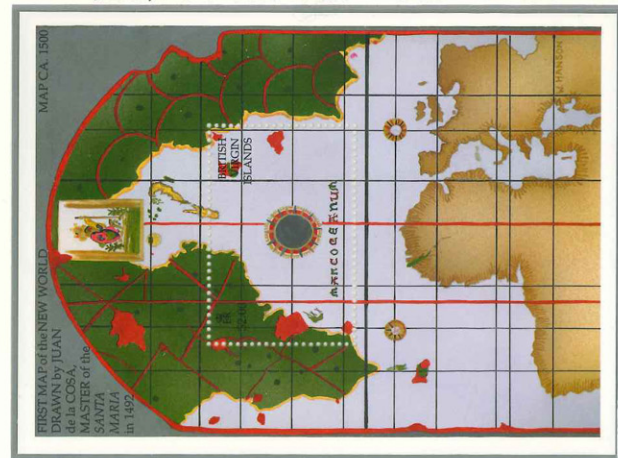
コーサ図は旧大陸(退色で見にくくなっている)は従来の地図を踏襲し、その西側にアメリカ大陸を新しく描写している。旧大陸とアメリカ大陸の描き方が縮尺の違いも含め異なっているため、別の地図をつなぎ合わせた感じの世界地図になっている。



【スペイン:2000】

略図化、デザイン化された地図

【英領バージン諸島:1992】



地図の上部(左側)には子供のイエス・キリストを背負って川を渡るクリストフォロス(キリストを背負う者)聖人が描かれている。クリストファー・コロンブスの名前の由来にもなったこの聖人は航海(水を渡る旅)の守護聖人としてコロンブスに結び付けて描かれた。



カンティーノ図
(1502年)

1502年にポルトガルで製作された『カンティーノ図』はイタリアのフェレーラ公が派遣したスパイであるカンティーノが、地図師を買収して盗写させた地図をイタリアへ持ち帰ったもので、原図はリスボン大火災で焼失したため貴重な1枚となっている。コーサ図と異なりアメリカ大陸からアジア東部までを一定の様式で描いた画期的な世界地図であり、1494年にスペインとポルトガルが世界の植民地を分割するために締結したトルデシリャス条約による領土分割線がブラジルの部分を通して明瞭に示されている。

大西洋を挟む新旧両大陸地塊



【カーボベルデ:1968】

最南端を含むアフリカ大陸南西岸



【南西アフリカ:1988】

細長く描かれたマダガスカル島



【モーリシャス:2002】

ブラジル部分



【ブラジル:2000】

1500年にブラジルを発見したカブラルが持ち帰ったオウムを描き、オウムの地と記している。

沿岸部にはびっしりと書き込まれた地名とともに、ポルトガルの探検家達が上陸した地点に建てられた十字架を冠した石柱(パドラン)も描かれている。最南端部の石柱は1488年に喜望峰を発見したディアスが建てたものである。



第8回

マキシマムカードを基にした《切手展ポスター(部分)》

ヴァルトゼーミューラー の世界図 (1507年)

1507年にドイツの地理学者ヴァルトゼーミューラーが製作した世界図は、プトレマイオスの第2図法を変形させた地図投影法を用い、旧大陸に加えて西端部に第4の大陸をはっきりと独立させて描いている。そして南米大陸に当たる部分に“アメリカ”の名を初めて記載した。コーサ図やカンティーノ図が手書きの地図であったのに対し、この地図は12枚の木版による印刷地図として製作され、つなぎ合わせると1枚の世界地図(縦1.3m、横2.4m)になる。

12枚の地図に分離した状態のヴァルトゼーミューラーの世界図

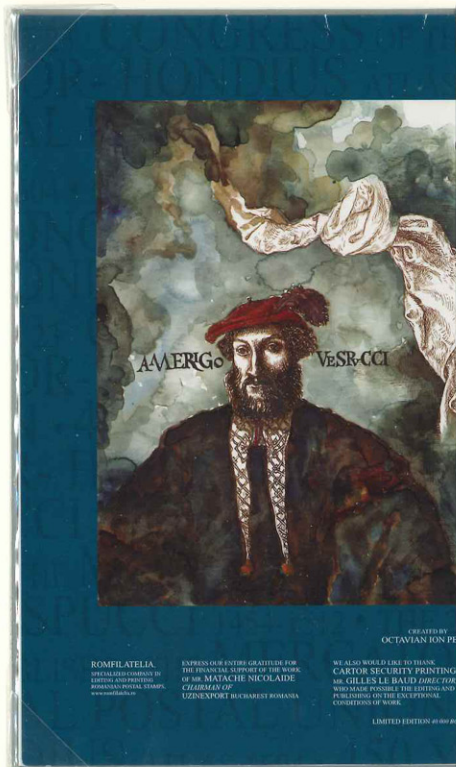
アメリカ・ヴェスプッチ

コロンブスの後に南米大陸を連続して探検したアメリカ・ヴェスプッチは自身の航海をまとめた『新世界』を出版するが、ヴァルトゼーミューラーはこの書に強い影響を受け、新大陸の部分に彼の名に因んで“アメリカ”と記載した。

アメリカ・ヴェスプッチとAMERICAと記載された地図の部分



【目打ずれエラー】
(イタリア:1954)



《プレゼンテーションバック表紙(ルーマニア:2004)》



日本

切手印面から
復元した全体図

南米大陸の部分

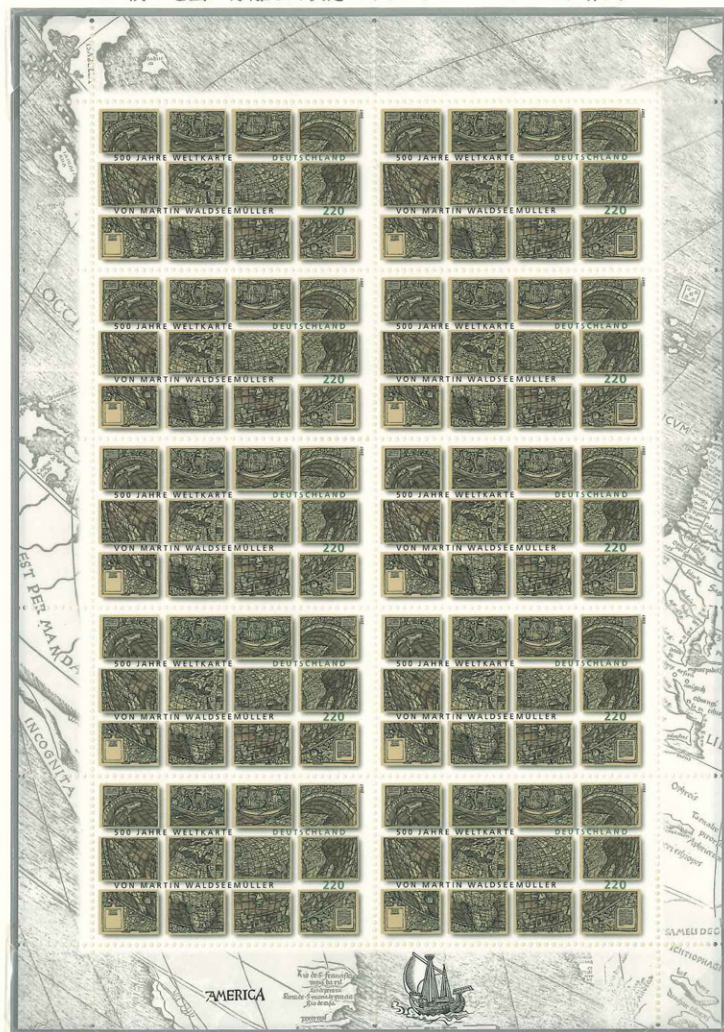


【フランス:1992】

アフリカ大陸中・南部の部分



【ボツワナ:1991】



【ドイツ:2007】

シートマージンには地図の一部が描かれている。

当初1000部印刷されたこの地図は、その中でわずか1組だけ残存していたものを“アメリカの出生証明書”という歴史的遺産として、アメリカ議会図書館は2003年に1000万ドルという想像を絶する価格でドイツの図書館から買取った。

アメリカ
議会図書館



【アメリカ:1982】

6.2 アメリカ大陸図 ・地域図

《博物館パンフレット》

ミュンスターのアメリカ大陸図

マゼラン隊の世界周航の成果を取り入れて太平洋を広く描き、南太平洋の部分にはマゼランが名付けた“穏やかな海”「太平洋」の名が記載されている。



【オーストリア:1992】

南北に細長い日本が北米大陸と超接近した状態で描かれている。

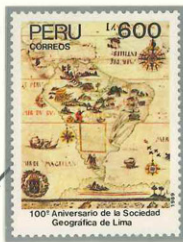
世界周航を果たしたビクトリア号



【仙領南方・南極地域:1973】

マゼランのフィリピンでの死後、船長となったエルカノが世界周航を達成するが、インド洋でアムステルダム島を発見。(命名は後のオランダ人、1892年以降フランス領)

デセリエ製作
の世界図
(南米部分)



【ペル-:1989】

“太平洋”ではなく“マゼラン海”
(MER DE MAGELLAN)と
記載されている。



日本 (Zipangri)

は、大きな南北の一つの塊！

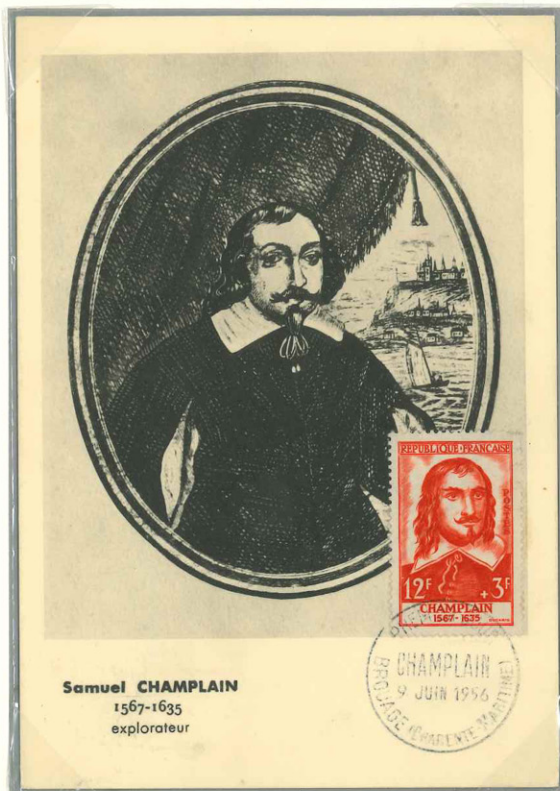
その南に描かれた巨大な船は、世界周航を果たしたマゼラン隊の旗艦「ヴィクトリア号」。



S. ミュンスター「南北アメリカ大陸図」16世紀中頃

大航海時代以降、西洋社会で作られた地図には、様々な形態をした日本が描かれています。地図のまわりや内部には様々な情報が盛り込まれ、装飾も施されています。これらは、当時の社会の思想を反映したものです。

シャンプラン 〈マキシムカード(フランス:1956)〉



Samuel CHAMPLAIN
1567-1635
explorateur

シャンプラン

探検家で地図製作者であった
シャンプランは1603~1616年
の探検の成果を取り入れて、
ニューファンドランド~ノヴァスコ
シア~セントローレンス川河口に
かけての複数の地図を製作した。

ノヴァスコシア半島~コッド岬
沿岸の地図(シャンプラン作)
《カシエ》

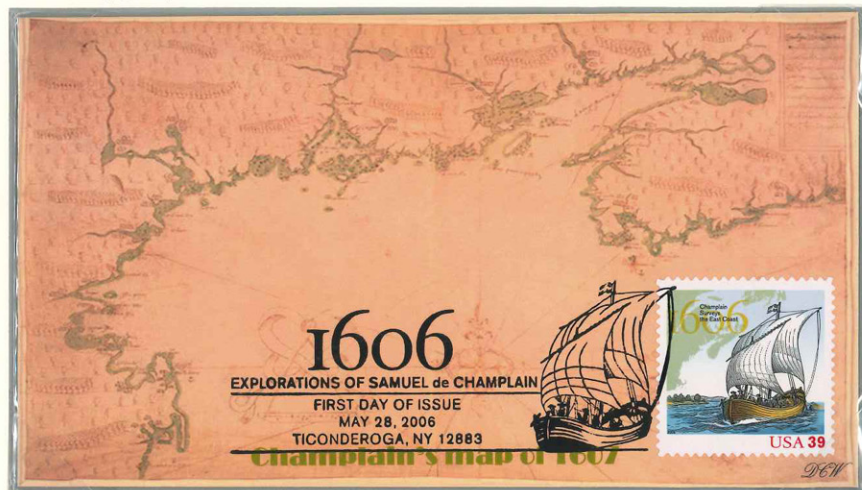


シャンプラン後の1620
年代にメイソンが描い
たニューファンドランド
島の地図(南が上)



【ニューファンドランド:1933】

【ダイブルーフ】



【初日カバー(アメリカ:2006)】



セント・クロア島の地図
(シャンプラン作)

セント・クロア島はカナダのニュー
ブランズウィック州とアメリカの
メイン州との国境を流れるセント・
クロア川河口付近に位置する島
で、1604年にシャンプランがデ
ュクアとともに植民活動を行った。

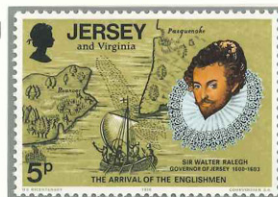
地図には

帆船、架空の海獣、浅瀬、
水深の数字、建物、
断崖の続く海岸線
が描かれている。

【フランス:2008】

探検家のジョン・スミスは1607年にジェームズタウン（現ヴァージニア州）に植民地を建設し（ヴァージニア植民地）、1609年まで植民地の指導者を務めた。後に現アメリカ合衆国北東部の探検を行い、その地をニューイングランドと名付けた。

【ジャージー：1976】

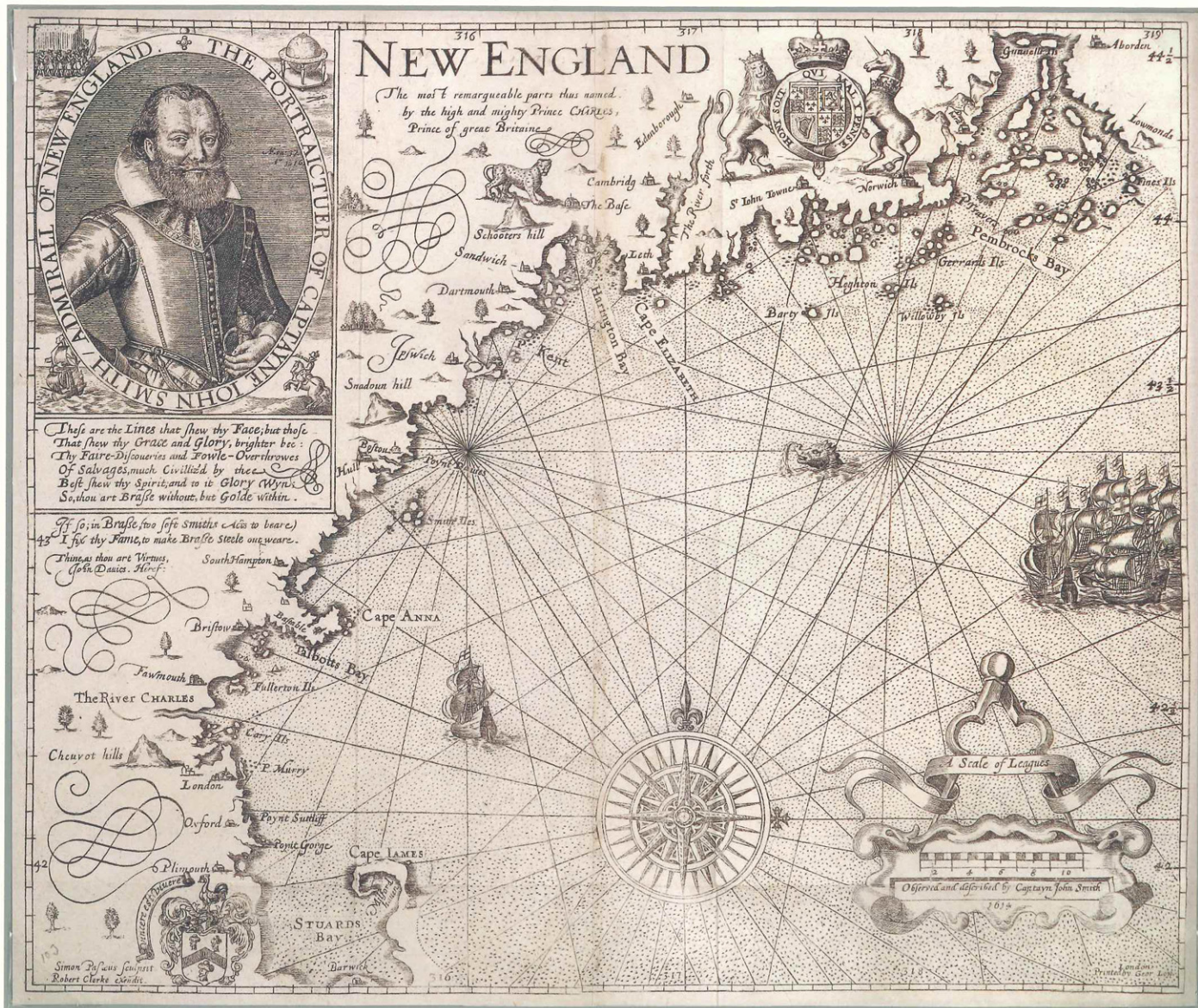


1585年にローリーにより最初の植民の試みがなされたロアノーク島（ヴァージニアと命名：現ノースカロライナ州）の地図

試みは失敗に終わり、後の1607年にヴァージニア植民地（現ヴァージニア州）が設立された。

ニューイングランドの命名者
ジョン・スミス

ニューイングランド沿岸の地図

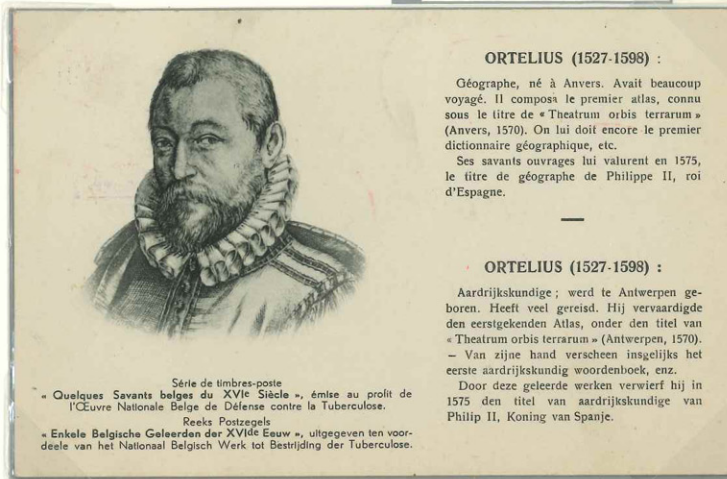


7 近代地図帳の時代

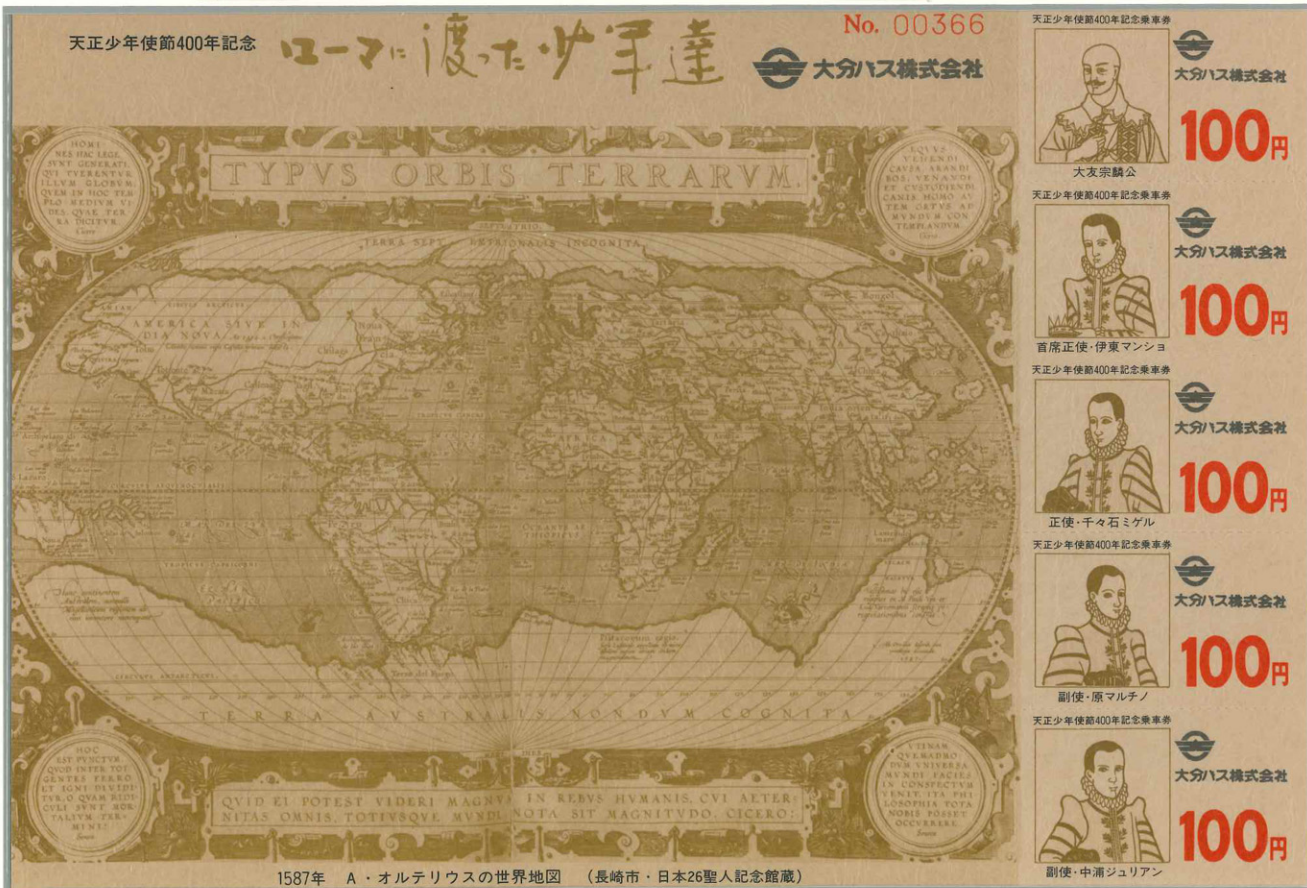
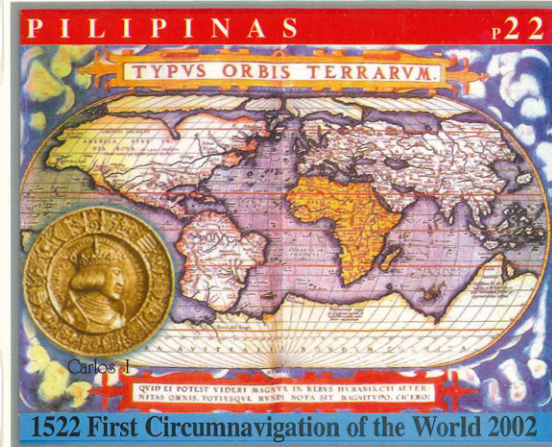
7.1 オルテリウス

オルテリウス
《切手発行記念葉書》

フランドル地方で活躍した地図製作者オルテリウスは、自身が集めた多くの地図を基に各地図の大きさを揃えて1570年に『世界の舞台』と題する初の近代的地図帳を刊行。人気を博して版を重ね、図幅の数も増えていった。



オルテリウスの世界図(1570年初版)【フィリピン:2002】



オルテリウスの世界図
(1587年版)

1570年版と1587
年版では南米大陸
の形状が異なる。

未知の北方・南方
大陸が大きく描か
れている。

来日していた宣教師ヴァリニャーノの提案を受けたキリシタン大名の大友宗麟は、1582年に「天正遣欧少年使節」4人を派遣した。

使節はローマに到着してローマ教皇に謁見、滞在中にオリテリウスの『世界の舞台』を譲り受け、日本に持ち帰ったことにより日本人の地理的知識の拡大に重要な役割を果たした。

《記念乗車券》

《複製図》 北方地域図(部分)



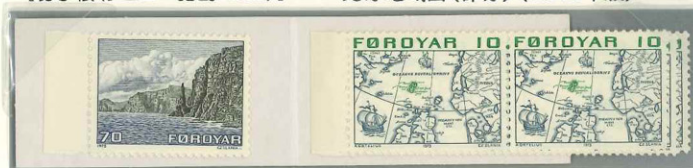
- ①未知の大陸
- ②伝説の島
グロクランド
- ③グリーンランド
- ④アイスランド
- ⑤伝説の島
フリースランド
- ⑥フェロー諸島

オルテリウスの『世界の舞台』は、銅版彩色印刷で美麗のため高価にもかかわらず大人気を博し、次々と版を重ねて各国語版も出版される一方で、新しい地域図も加えて図幅の数も増えていった。

北方地域図(1570年版)



【切手帳(フェロー諸島:1975)】



北方地域図(部分)(1573年版)

デンマーク図(1570年版)



【デンマーク:2009】

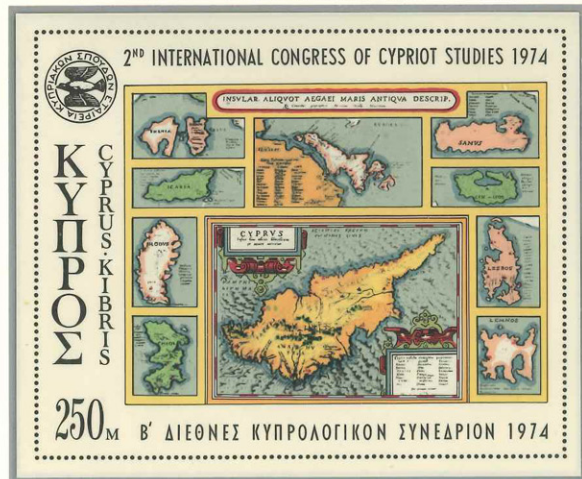
【アイスランド:1984】

この地図に描かれた日本は、本州・四国・九州を一つに描いた大きな楕円形の島と、その南西に多くの島が連なる南西諸島が続いている。

東インド諸島図(1570年版)

1579年版以降には歴史地図が付随しており、多くの古地図が収録されている。

キプロス島とエーゲ海の島々の古地図(1584年版)



【キプロス:1974】



《絵葉書》



《絵葉書》

太平洋図(1589年版)

この地図には、九州・四国・本州を描いた日本の北方に“Isla de Plata”(銀の島)と記された大きな島が描かれており、マルコ・ポーロ以来の黄金伝説と石見銀山の情報をどのように取り入れたかが地図によって異なっている。

タルタリア図(部分)(1570年版)



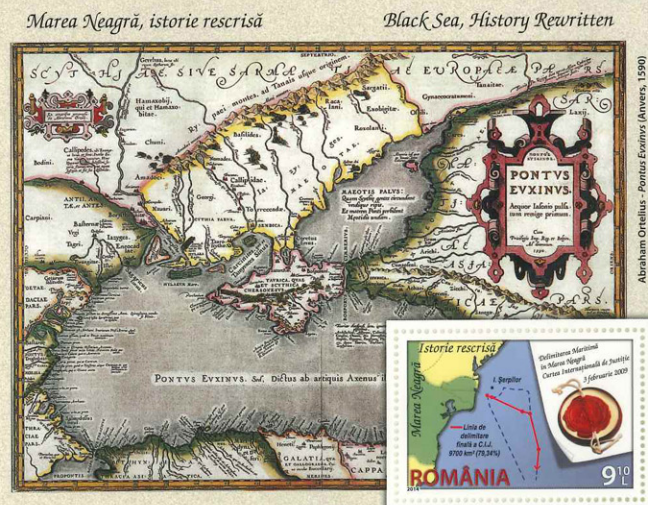
【日本:2008】

「タルタリア」はモンゴル系民族の総称としての“タタール”の土地すなわちアジア大陸北東部の地域に当たる。

全体図ではアジア大陸北東部と北米大陸の一部が描かれており、日本はその間に本州とその南に細長い四国、島に分かれた九州が描かれている。本州上部には“Minas de plata”(銀の鉱山)と記載。

地図製作当時、銀の産出が始まっていた石見銀山は銀の交易によって世界に名が知れ渡ることが、この地図では実際の位置は特定されていない。

黒海図(1590年版) 表題の“PONTUS EUXINUS”は黒海の古名である。



5 ani de la Hotărârea
Curtii Internaționale de Justiție
privind Delimitarea Maritimă
în Marea Neagră
(3 februarie 2009)



5 years since the Judgment
of the International Court of Justice
on the Maritime Delimitation
in the Black Sea
(3 February 2009)

【ルーマニア:2014】

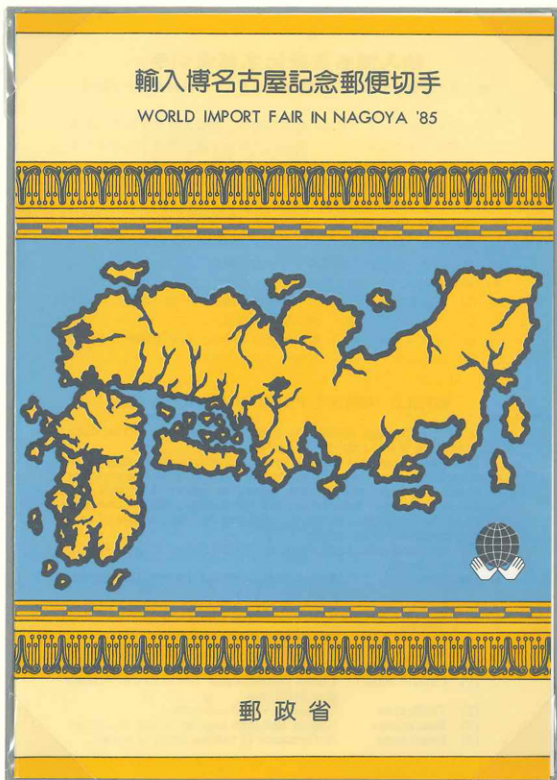


《商品包装袋:複製図》

テイセラの日本図

オルテリウスの『世界の舞台』に日本専図が初めて収録されたのは1595年の第20版であった。ポルトガルの地図製作者テイセラによるもので、日本に來航したポルトガル人の情報などから日本列島の形状が良くなり、九州の海岸線の描写は特に詳しい。また、当時の日本各地の国名も多く記載されている。

朝鮮半島が“朝鮮島”(COREA INSULA:ラテン語)として描かれている。



《切手発行パンフレット》



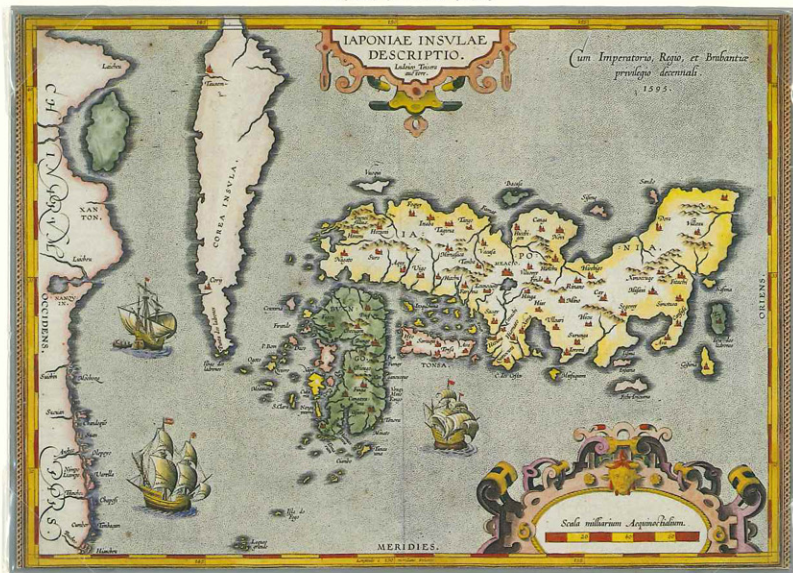
【みほん】



【日本:1985】

《絵葉書》

日本図(1595年版)



《複製図》



中国地方北西部の石見(Hivami)の近くにラテン語で“Argenti fodinae”(銀の鉱山)と記載されている。

中国地方では他に次の国名が見られる。長門(Nagato), 周防(Suro), 安芸(Aquy), 備後(Vigo) 備中(Hitchu), 美作(Mimasaca), 伯耆(Foquy), 因幡(Inaba)

7.2 メルカトル と ホンディウス

メルカトル

オルテリウスと同様、フランドル地方で活躍した地図学者メルカトルは地図学、天文学、幾何学を学び、世界図をはじめ各地域の地図や地球儀を製作した。

メルカトルと地球儀



【ドイツ:2012】

メルカトルは1569年にいわゆるメルカトル図法による世界地図を完成させた。

この地図は、従来のポルトラノ海図の方位に誤差が生じるという欠点を克服し、航程線が地図上の全ての地域で直線で示されるという画期的な地図で、表題にも“航海用”に最適な図法と明記されている。

メルカトル図法による世界図の
マダガスカル付近(1569年)



【モーリシャス:2002】

アイスランド南方に伝説の島フリースランド島が描かれており、オルテリウスも継承した。

ヨーロッパ図(部分)(1554年)



《複製図》

アトラス(地図帳)の命名者メルカトル

メルカトルは全て自身の手によって描いた地図での地図帳出版の構想を持っていたが、没後の翌年1595年に息子の手でまとめられて完成する。

この地図帳はメルカトルの意志により、天を支えるギリシャ神話の巨人神アトラス(あるいは地球儀を作ったマウレタニアの伝説王アトラス)に因んで“アトラス”と名付けられ、以後地図帳を表す名称として定着した。

ギリシャ神話の巨人神アトラス



【アルゼンチン:1948】

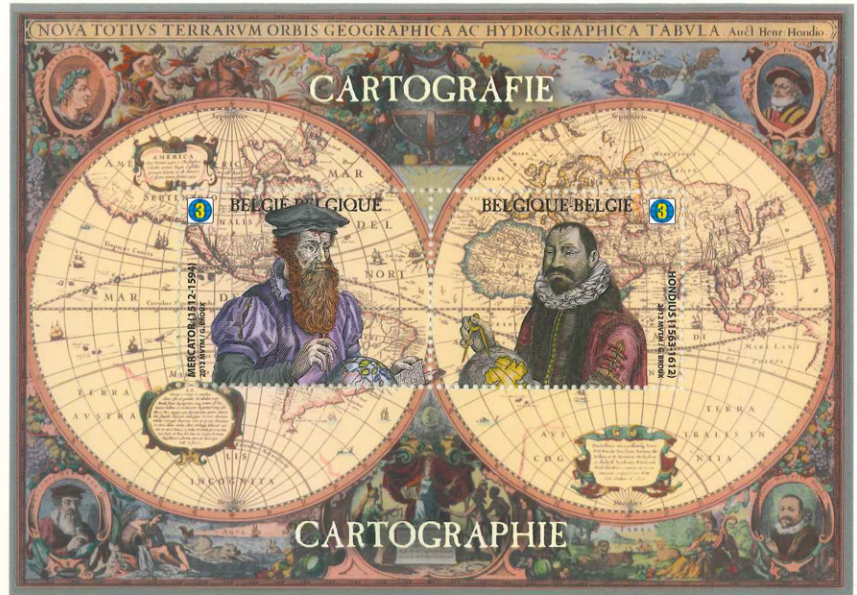
アフリカ図
(1595年版地図帳所収)



【ボブツワナ:1993】

メルカトルと ホンディウス

ホンディウスの世界図



【ベルギー:2012】



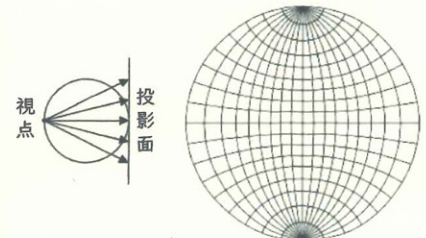
《複製図》

メルカトルの地図帳の銅版はその後、同じくフランドル出身のホンディウスが引き継ぎ、新しい地図を加えて1606年にメルカトル・ホンディウス版アトラスとして出版された。

平射図法(横軸投影)

赤道上の1点を視点にして対蹠点(地球上の正反対の地点)に接する平面に投影する図法で、互に対蹠点である2点を視点にそれぞれ描いた半球図を2つ合わせると世界図となる。

この方法で描く世界地図の表現方法は、このホンディウスの世界図を含め、16世紀~18世紀にかけて多くの地図製作者が用いた。



7.3 ブラウ

聖地（パレスチナ）図：『大地図帳』所収
【パチカン：1999】

ホンディウスの死後、その銅版の一部を入手した
ウィレム・ヤンスゾーン・ブラウは新図を加えて地図
帳を製作し、息子のヨアン・ブラウと協力して1635
年に刊行。その後、ヨアン・ブラウは1648年に『新
世界全図』を製作したのに続き、次々と新しい地図
を加えて地図帳を拡充し、1662年には11巻から
なる『大地図帳』を完成させた。

ウィレム・ヤンスゾーン・ブラウ



【オランダ：1983】



(コピー)



西半球図の北西端
に描かれた“蝦夷”
を含む日本最東端

平射図法（横軸投影）で描かれた
2つの半球図からなる『新世界全図』

《複製図》 東半球図の北半球部分：北東端に日本が描かれている。



宛名面コピー (40%)

イタリア図：ブラウ『大地図帳』所収



【官製絵葉書(パチカン)】

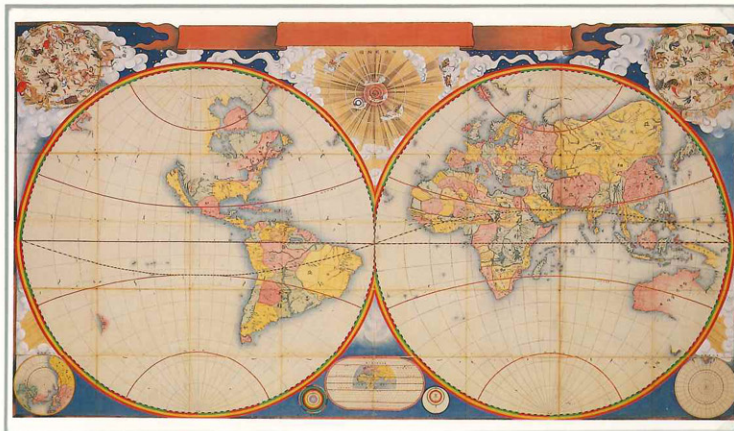
バミューダ図：ブラウ『大地図帳』所収

【バミューダ:1979】



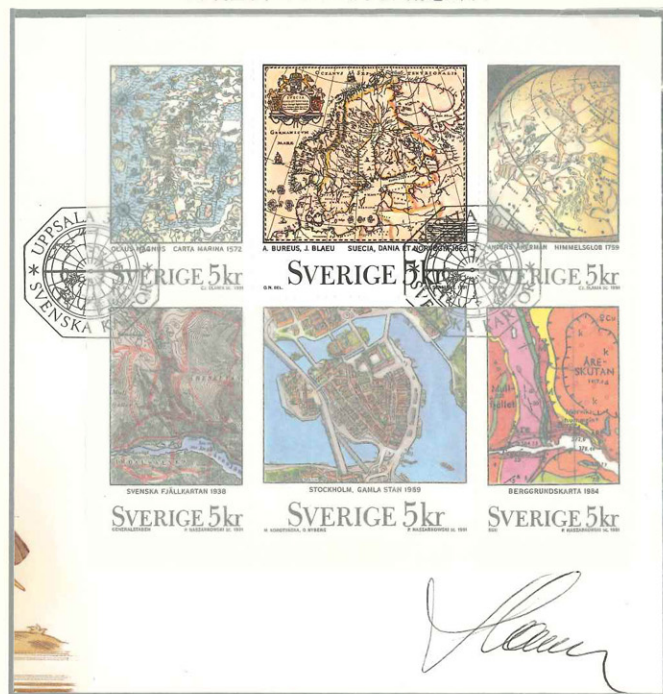
フィッセル改訂ブラウ世界全図(17世紀)

ブラウの地図を新しい情報を取り
入れてフィッセルが改訂した地図



《絵葉書》 江戸時代に日本に伝わったフィッセル改訂ブラウ世界全図
の模写複製図で日本語の注記を記載(18世紀)

北欧全図：ブラウ『大地図帳』所収



【初日カバー(スウェーデン:1991)】 切手凹版彫刻師“スラニア”のサイン

宛名面コピー (40%)

ラブラドル〜ニューファンドランド
：ブラウ『大地図帳』所収



【官製絵葉書(パチカン)】

7.4 その他の地図製作者

『水差しをもつ女』
《絵葉書》

フェルメールと地図

ホンディウスの『大地図帳』が刊行された17世紀は、繁栄した国力を背景に地図製作においてもオランダの黄金時代であった。

この時代にオランダで活躍した画家の1人であるフェルメールの作品は光や細部に至る緻密な表現が特徴で、部屋の中にいる女性を描いた作品の中に数多く登場したモチーフが“地図”である。

ブラウの地図帳が人気であった当時のオランダでは壁掛地図を室内に飾ることも一つの流行になっていた。



「低地ゲルマニア図」：アラルト製作



『絵画芸術』《絵葉書》

「新訂低地ゲルマニア図」：フィッセル製作

【モザンビーク:2001】

『リュートを調弦する女』
《絵葉書》

「ヨーロッパ図」：ホンディウス（あるいはブラウ）製作



【モザンビーク:2001】

『青衣の女』



【アイツタキ:1979】



【オランダ:1996】



【モザンビーク:2001】

『士官と笑う女』



《シール》

当時の地図製作者達により描かれた地図を、フェルメールはその地図の種類が判断できるまでに精巧に地図を自身の絵の中で再現しており、まさに驚異の描写になっている。

『青衣の女』と『士官と笑う女』の2作品に描かれた地図は色調の違いはあるが、ともにベルケンローデ製作の「全ホーランド・西フリースラント精密新図」

リンスホーテンの『東方案内記』

《複製図》

オランダの航海者・商人であったリンスホーテンはアジアへの航海に基づいて『東方案内記』を1596年に出版した。

・東インド地域図に描かれた日本

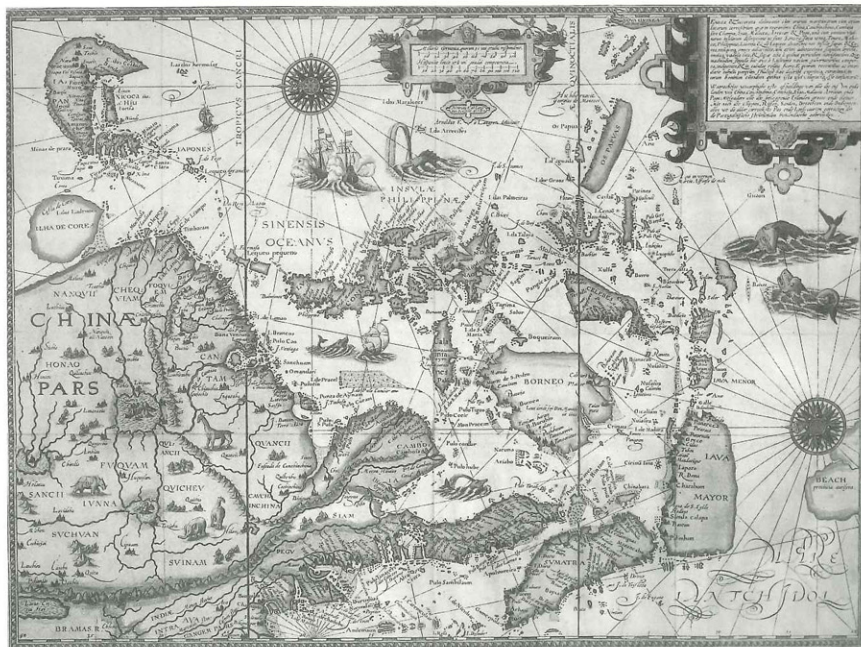
日本が、東部で大きく屈曲した本州，細長い四国，鋸歯状の九州とその南に続く南西諸島で描かれている。

Nara (奈良) Meacum (都) Saquay (堺)
Bacasa (若狭) Bandel (坂東? : 紀伊半島と東国の合体?)
Minas de prata (銀鉱山) Xicoca (四国) Tonsa (土佐)
Cangoxima (鹿児島) Firando (平戸) Tuxima (対馬)

東インド地域図：リンスホーテン『東方案内記』所収（ラングレン製作）



一出品目録一



No.17 東インド地域図

《古地図展出品目録》

東インド地域図は、東を上にしてインドシナ半島・マレー半島から中国，日本さらに東南アジアの島嶼部を描いており，朝鮮半島は中国の東に大きな島で位置している。島嶼部ではジャワ島の南北の幅が誇張されているのが目立つ。また，地図の南部（右側）には海獣が大きく描かれている。

北極圏図

『東方案内記』1599年版所収



拡大コピー ↑



【モナコ:1981】

リンスホーテンはオランダの探検家バレンツの北極海への航海（アジアへの北東航路開拓）に同行した。この航海での情報を基に描かれた北極圏図では，オルテリウスやメルカトルが描いた未知の北方大陸が否定されて消え，探検の成果でノヴァヤゼムリヤが描かれている。



《複製図》

世界図
：フィッシャー製作
(1658年)

カリフォルニアが島で描かれており、オーストラリア大陸東岸はまだ不明で描かれていない。

北極と南極を中心にした投影図も含まれており、未知の大陸は消えているが、南極大陸は当然まだ描かれていない。

ジャマイカ図の変遷



【ジャマイカ:1976】



【ジャマイカ:1977】



【ジャマイカ:1977】

ランゲネス製作
(1598年)

ヒッケリング製作
(1661年)

フィッシャー製作
(1680年)

ネーデルラントをライオンに見立てて描いたライオンマップ:カエリウス製作(1617年)



《絵葉書》

イタリアの地図出版者ベトリニによる世界図(1700年)
：フランスの地図学者サンソン製作の世界図(1660年)をほぼ踏襲している。



【パチカン:2000】

マルコ・ポーロにちなんで発行された切手で、ポーロの中国からの帰国ルートを、ベトリニの地図の上に描いたデザインになっている。

8 近世日本の地図

日本では1543年のポルトガル人の来航以来世界への関心が高まり、16世紀末以降ヨーロッパ製の地図を基に日本人が手を加えた豪華な世界図屏風が製作された。初期にはポルトガル製の地図を(右の切手図案)、江戸時代にはオランダ製の地図を手本にした。

【日本:1982】



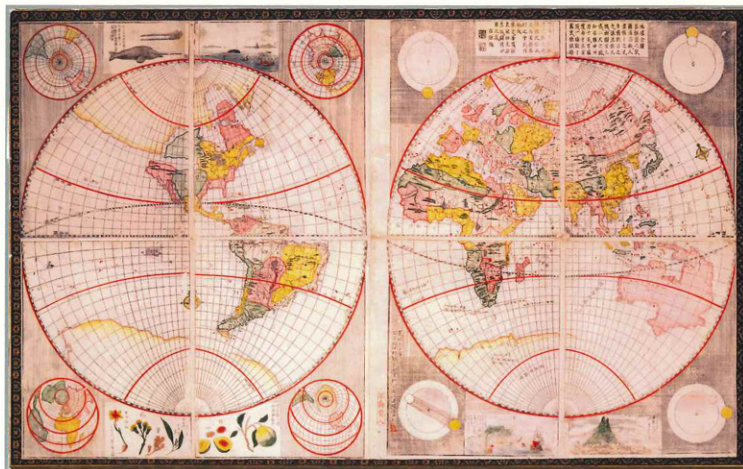
世界図屏風(部分)(17世紀:江戸時代初期)



《絵葉書》

江戸時代後期の蘭学の発達により、ヨーロッパ製世界地図を基にした蘭学系世界地図が日本人の手によって多く製作された。

『地球全図』(1792年:司馬江漢製作)



《絵葉書》

世界図屏風と並んで日本図屏風も製作され、国ごとの境界線が示され国名が記載されている。下図では琵琶湖と淀川水系が明瞭である。

日本図屏風(16世紀末:安土桃山時代)



No.11 日本地図屏風(安土桃山時代)

《古地図展出品目録》

イエズス会宣教師によるアジア布教の拠点となったマカオでは地図や地球儀の製作も行われ、日本にも流入した。それらを基にした日本人による世界地図の製作など江戸時代の地理学・地図学に大きな影響を与えた。

マカオで製作された地球儀

宣教師マテオ・リッチと
『坤輿万国全図』輪郭図

【マカオ:1999】



【イタリア:2002】

マテオ・リッチ製作の漢字表記によるアジア中心の世界地図
『坤輿万国全図』(1602年) (シート地背景)



【ポルトガル:1999】

江戸時代に日本人が製作した日本全国をヨーロッパ人が模倣した地図が多く製作された。

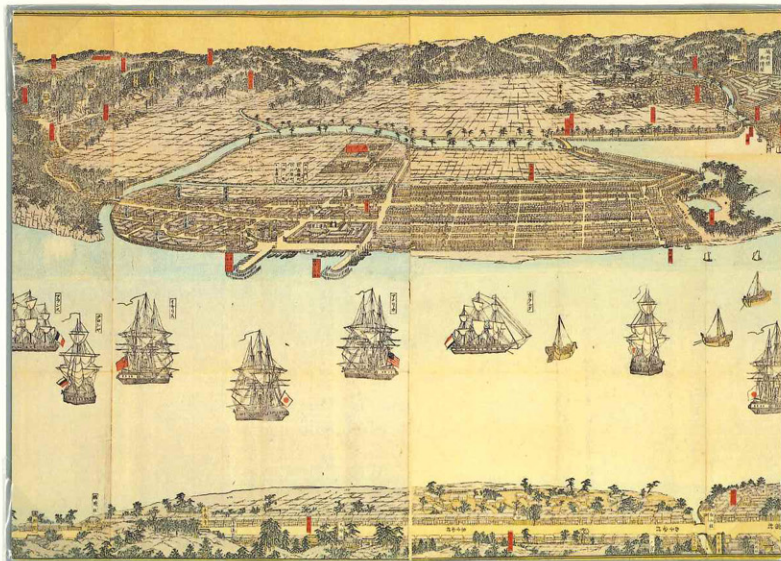
日本帝国図：レランド製作（1715年） 漢字表記の国名もそのまま記載されている。



《絵葉書》

江戸幕末期ペリー来航後の1858年に結ばれた日米修好通商条約を含む安政五カ国条約に基づいて、1860年に横浜など5港が開港した。

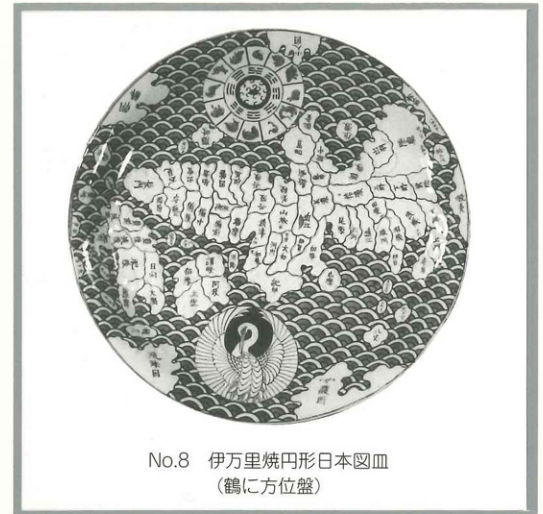
『御開港横浜之全図』（橋本玉蘭斎製作：1860年）



《絵葉書》

江戸時代後期には地図柄の工芸品も流行し、庶民も地図を楽しんだ。

伊万里焼日本図皿（19世紀：江戸時代天保年間）



No.8 伊万里焼円形日本図皿
（鶴に方位盤）

《古地図展出品目録》

簡略地図であるが国名は全て記載され、伝説の地「女護国」も描いている。

日米修好通商条約の批准書交換のため派遣された使節団の随行艦として「咸臨丸」が使用された。



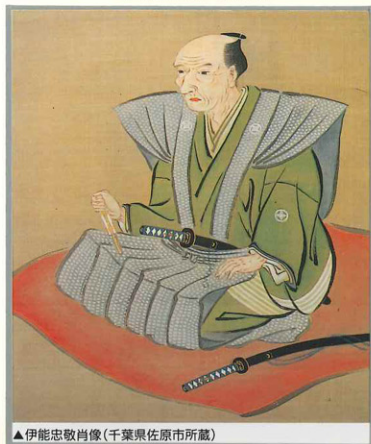
【みほん（日本：1960）】

拡大コピー



鳥瞰図として描かれたこの地図には、安政五カ国条約を結んだ国々の帆船が描かれている。

伊能忠敬の肖像



《博物館パンフレット》

伊能忠敬の地図

伊能忠敬は、江戸後期の1800年から17年間に全国を10回に分けて測量し、1821年に『大日本沿海輿地全図』を完成させて、幕府に献上した。縮尺の違いにより、大図214枚、中図8枚、小図3枚からなる日本初の実測日本全図であった。

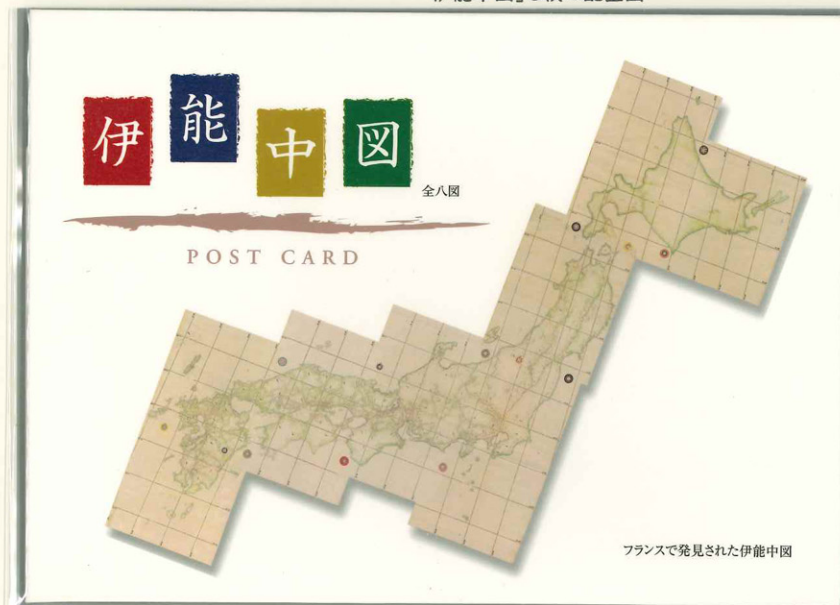
正本(原図)は明治6年に保管されていた皇居の火災により焼失し、現存しているのは控図や模写図であるが、その史料価値は極めて高い。



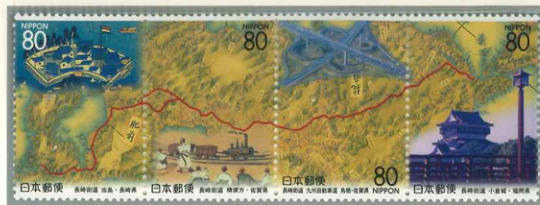
伊能忠敬と「伊能中図」の関東部分

【みほん】
(日本:1995)

「伊能中図」8枚の配置図



《絵葉書セットのカバー表紙》

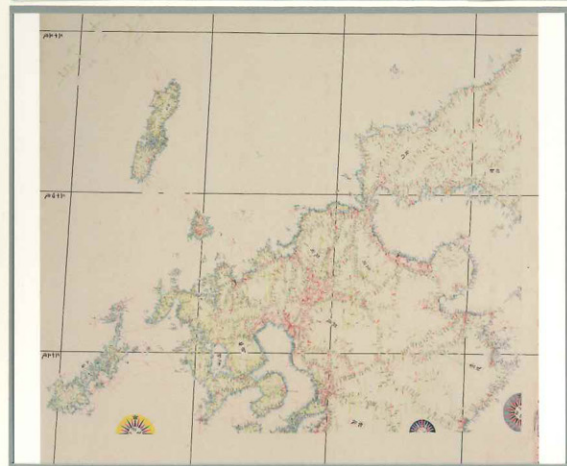
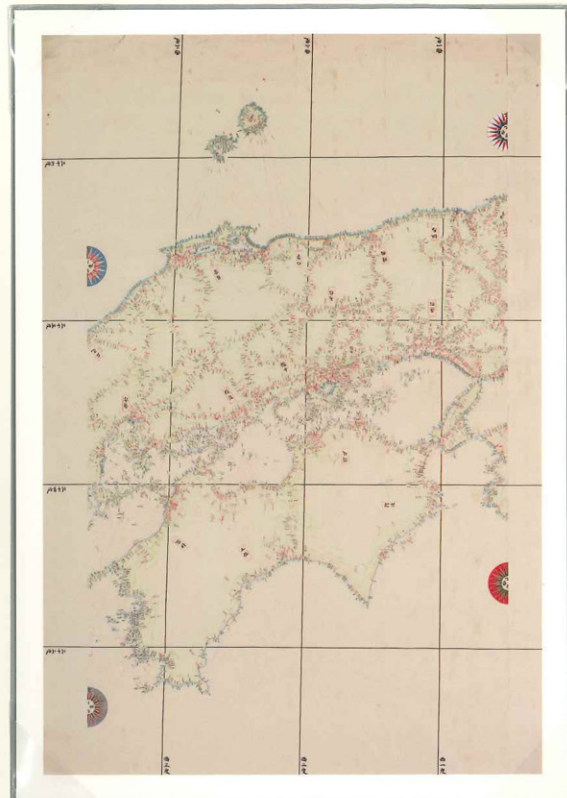
「伊能中図」:
九州北部(部分)

長崎と小倉を結ぶ長崎街道のルートが伊能図上に描く切手デザイン

【日本:1997】

「伊能中図」:中国・四国

《絵葉書》



「伊能中図」:九州北部

《絵葉書》

蝦夷地の北岸・西岸を除く全国の沿岸部と一部の内陸部を測量。海岸線は極めて正確に描かれており、測量ルート沿いに多くの地名が記載されている。

間宮林蔵と地図

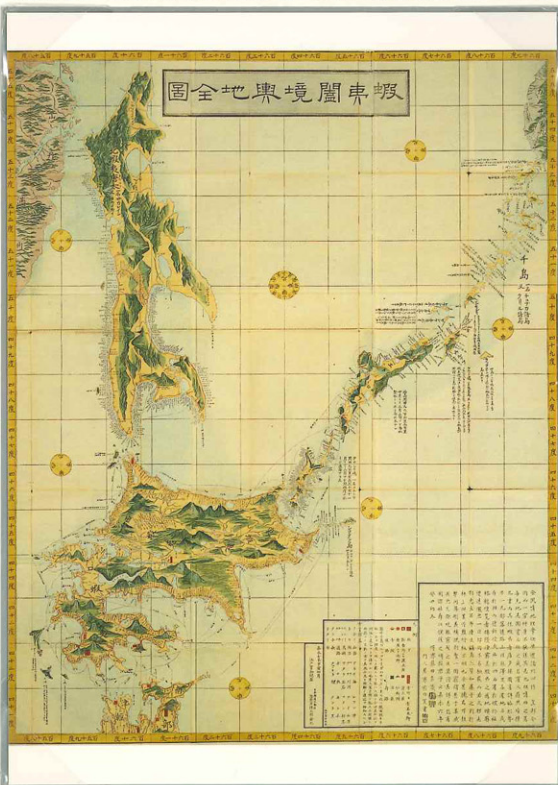
間宮林蔵は、19世紀初頭に日本の北辺の探検・測量を20年以上に渡って実施し、蝦夷・千島列島・樺太における業績を残し、関連の地図を製作している。樺太探検では間宮海峡を発見し、現在も世界地図上にその名を残している。

間宮林蔵の肖像と生家



《Pスタンプ絵画》

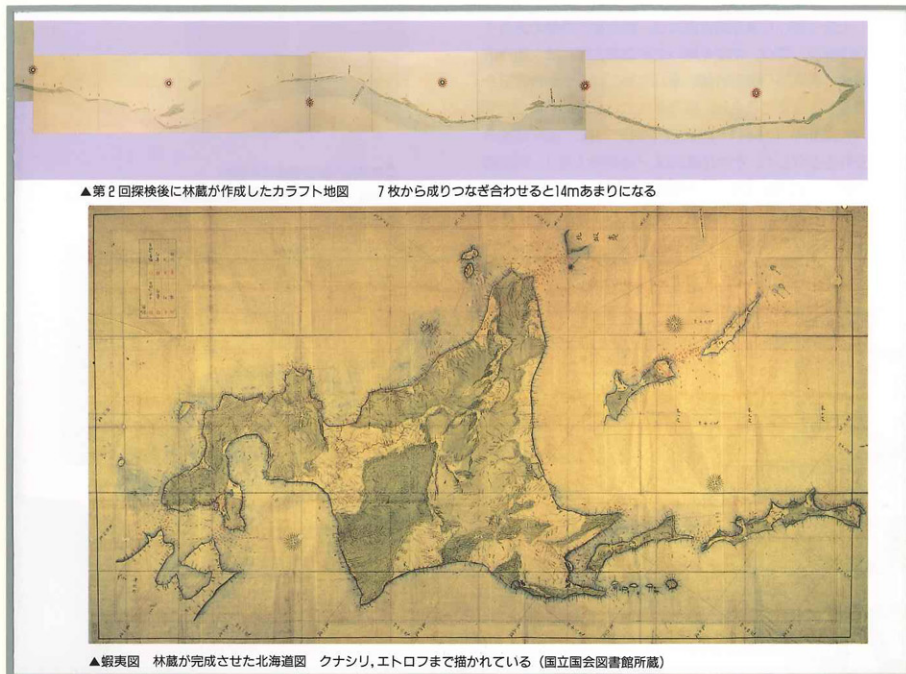
《絵葉書》『蝦夷閩境奥地全図』：橋本玉蘭斎製作（1854年）



幕末期に間宮林蔵の成果も取り入れて出版された、実用的な蝦夷図の中の一つで、沿岸部にはアイヌ語の地名がびっしりと記載されている。

千島の測量の後、林蔵は1808～1809年にかけて樺太沿岸を探検し、間宮海峡を発見。さらに1812～1822年にかけては蝦夷地を測量。伊能図の蝦夷北岸・西岸部分（伊能忠敬は未測量）は林蔵の測量に依っている。

間宮林蔵製作の『樺太地図』と『蝦夷図』



▲蝦夷図 林蔵が完成させた北海道図 クナシリ、エトロフまで描かれている（国立国会図書館所蔵）

《博物館パンフレット》

間宮林蔵とシーボルト

ドイツ人医師で博物学者でもあったシーボルトは長崎出島のオランダ商館付医師として1823年来日。鳴滝塾では西洋医学や蘭学を教えて貢献する一方、日本に関する資料を多く収集した。

シーボルトは間宮林蔵と1826年に接触する一方、高橋景保から禁制の地図を複数入手したことで1829年に追放処分となる。

シーボルト



【日本・ドイツ共同発行:1996】

シーボルトが帰国後の1832年に出版した『日本』の中には、高橋景保製作の『日本境界略図』をドイツ語に翻訳した地図が所収されており、間宮海峡を Str. Mamia (Seto) 1808 と記載している。

『日本境界略図』シーボルト翻訳図



▲シーボルト著「日本」

《博物館パンフレット》